

图 2.1.3 庄司川流域浸水被害状况 (H30.7洪水)

(3) 平成30年7月豪雨の浸水被害の原因分析

1) 気象・降雨状況

平成30年7月の梅雨前線豪雨では、近傍の川島雨量観測所の24時間最大雨量が349mmを記録し、近年で大きな内水被害となったH15.7、H21.7降雨と比べても大きな雨量となった。また、庄司川を含めた遠賀川本川上流域でも記録的な大雨となり、川島水位観測所（遠賀川）では観測史上最高水位となる6.16mを観測した。

内水時間帯（水門が閉鎖している時間）の7月6日6時～7日の7時の雨量は275mmで、時間雨量20mmを超える時間帯も多く、長時間の内水位の上昇を招いている。

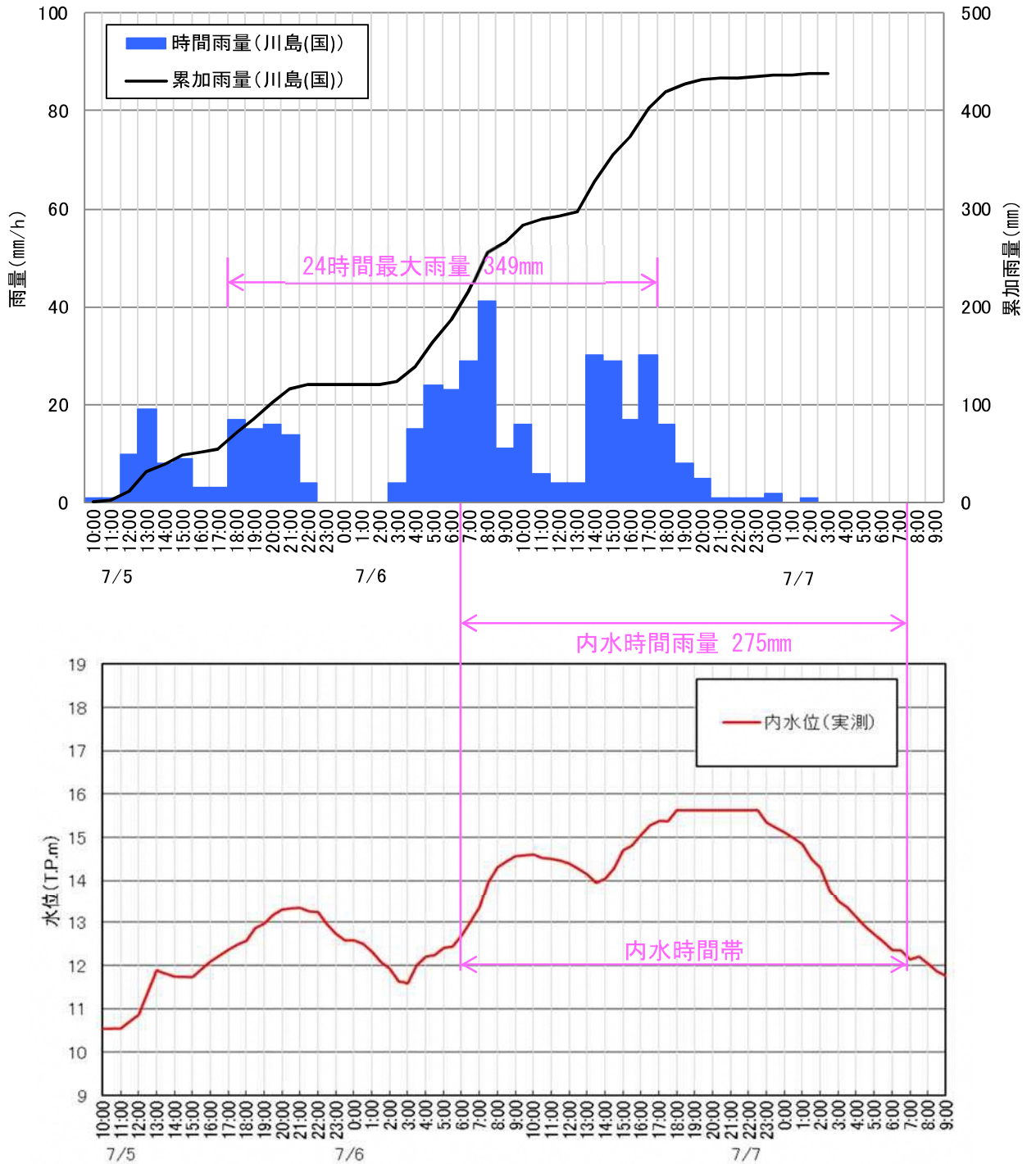


図 2.1.4 川島雨量観測所の時間雨量（上）、庄司川排水機場内水位（下）

2) 河川の状況

庄司川は、「遠賀川上流圏域河川整備計画（平成27年10月 福岡県）」に基づき、河川整備を実施中の段階にあり、依然として治水安全度が低い状況である。また、平成30年7月豪雨では、本川水位も川島水位観測所でHWLを超えるなど長時間高い水位を保ち、自然排水時間の減少により内水位上昇を招いており、庄司川合流点付近の水位低下対策が期待される。

以上の現状を踏まえ、河川改修及び適切な維持管理が課題である。

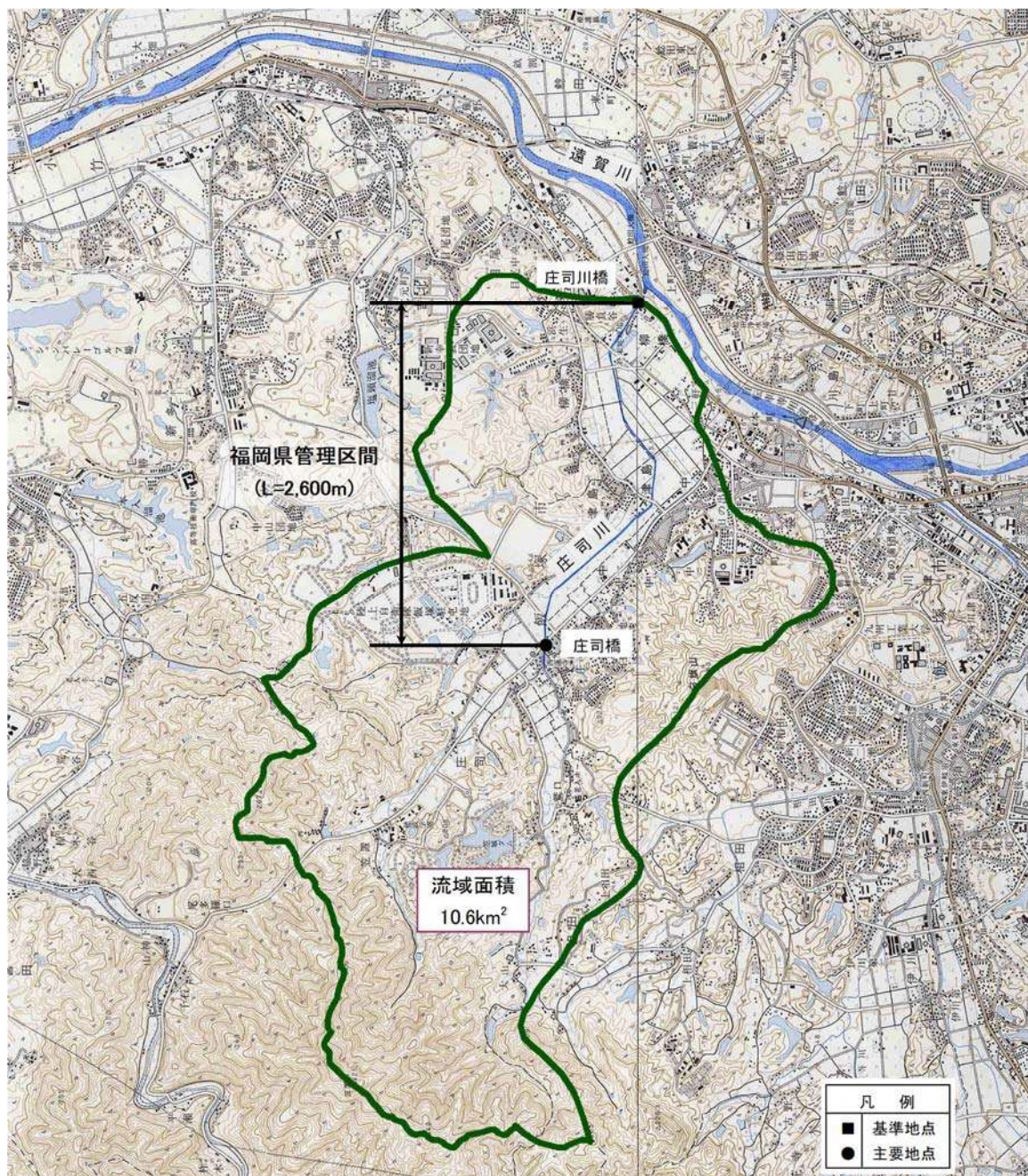


図 2.1.5 庄司川流域図

3) 庄司川排水機場の状況

平成6年3月に完成した庄司川排水機場は、15.0m³/sの排水能力を有している。

平成30年7月豪雨では、長時間にわたり比較的強い（時間雨量20mm程度）降雨が降り続いた。庄司川排水機場では、1山目の7月5日17時～6日0時、及び7月6日6時～7日7時の長時間にわたりポンプが稼働し、内水被害の軽減に寄与することができた。

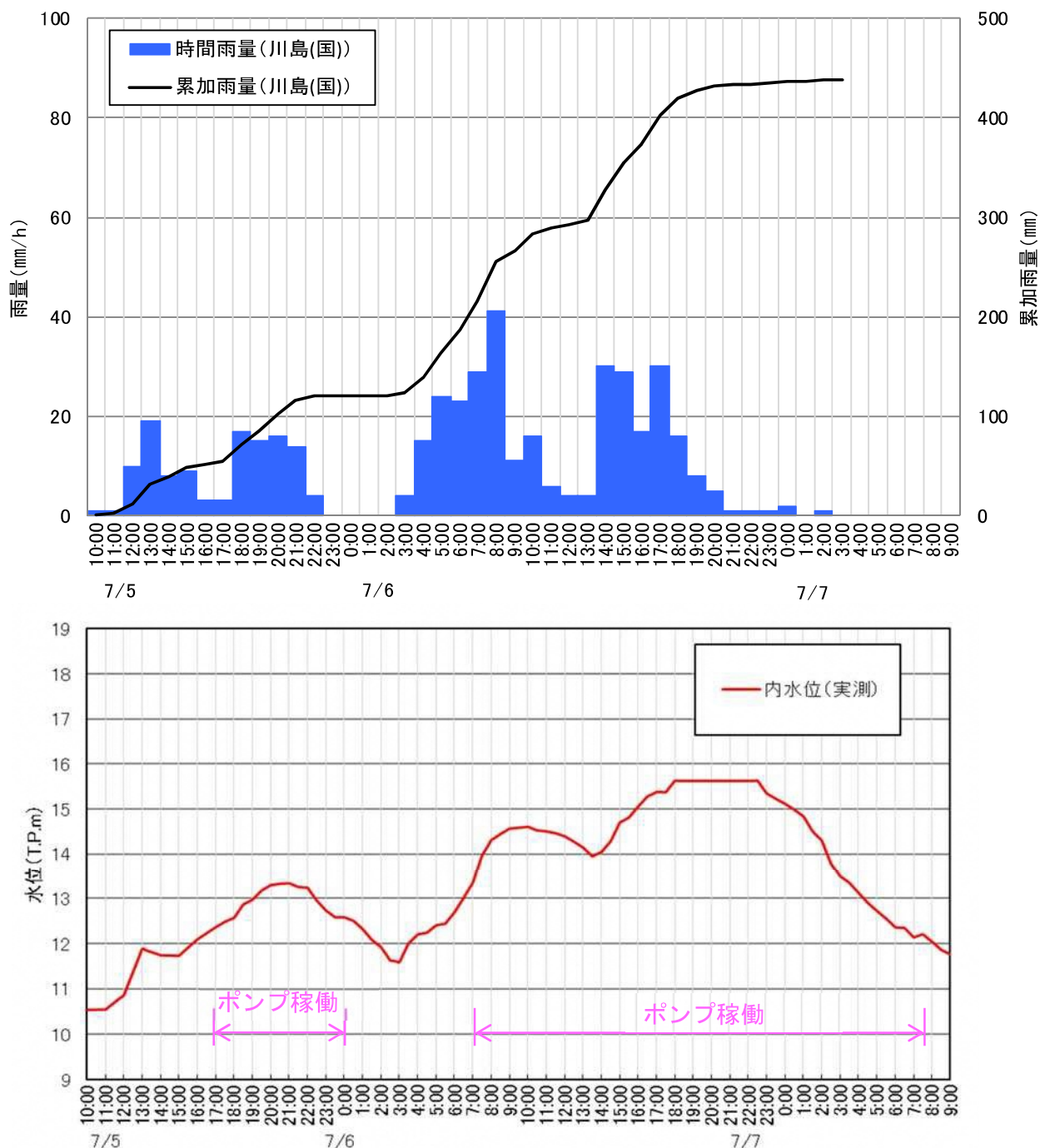
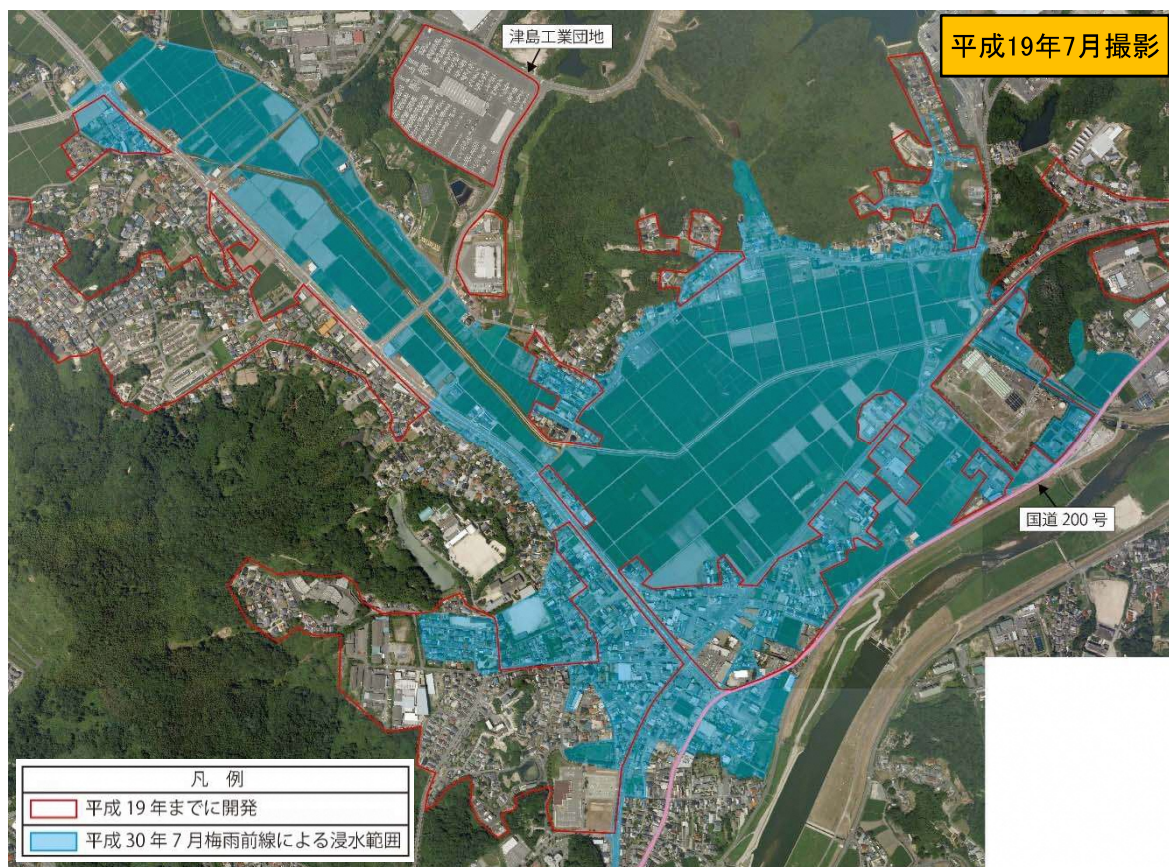


図 2.1.6 平成30年7月豪雨における庄司川排水機の操作状況

4) 流域の状況

山地部における工業団地の進出、宅地開発及び主に主要地方道飯塚福間線周辺の宅地開発等により、遊水能力の減少も懸念される。



※国土地理院 空中写真に加筆

図 2.1.7 庄司川流域の土地開発の状況